

部活動の段階的な地域移行の考え方について

新潟市教育委員会

新潟市推計人口（令和4年9月時点）に見る年齢別推計人数

（新潟市 区別男女別年齢別人口HPより）

| 新潟市全体 | 0歳 | 5歳 | 10歳 | 15歳 | 42歳（親世代） |
|-------------|-------|-------|-------|-------|----------|
| 人口（人） | 4,668 | 5,814 | 6,357 | 6,761 | 約10,000 |
| 15歳人口に対する割合 | 69% | 86% | 94% | 100% | |
| 〇区 | 0歳 | 5歳 | 10歳 | 15歳 | 40歳（親世代） |
| 人口（人） | 379 | 491 | 625 | 691 | 約900 |
| 15歳人口に対する割合 | 55% | 71% | 90% | 100% | |

○新潟市では、子どもの数が47年間減少し続けている。全人口における子どもの割合も減少傾向にある。

○市内で減少傾向が最も顕著な区は、上記の表（下段）であり、全ての区で子どもの数は、減り続けている。

○生徒数の減少から自校単独での部活動が困難な学校もあり、今後、多くの学校で同様な状況が起こりうる。

★部活動ではなく、新たに生徒の活動の場をつくる必要がある。

新潟市の中学生のための地域運動活動・文化活動

将来的に部活動は、平日・休日を問わず地域活動になる。

令和8年度4月からは、休日の部活動を行わず、地域活動に移行する。

そこで、令和5年度4月より休日の部活動の地域移行に向けた準備を開始する。

部活動の段階的な地域移行の考え方について

新潟市内の中学校における部活動の現状

◎運動部

| 競技名 | 男女別 | 男設置数 | 女設置数 | 男女合計 |
|-----|-----------|------|------|------|
| 1 | 陸上競技 | 48 | 46 | 94 |
| 2 | 水泳競技 | 24 | 22 | 46 |
| 3 | バスケットボール | 42 | 42 | 84 |
| 4 | サッカー | | | 37 |
| 5 | 軟式野球 | | | 50 |
| 6 | 体操競技 | 2 | 5 | 7 |
| 7 | 新体操 | 2 | 14 | 16 |
| 8 | バレーボール | 9 | 52 | 61 |
| 9 | ソフトテニス | 32 | 44 | 76 |
| 10 | 卓球 | 50 | 39 | 89 |
| 11 | バドミントン | 19 | 27 | 46 |
| 12 | ソフトボール | 0 | 7 | 7 |
| 13 | 柔道 | 22 | 18 | 40 |
| 14 | 剣道 | 34 | 28 | 62 |
| 15 | 相撲 | 1 | 0 | 1 |
| 参考 | スキー（アルペン） | 2 | 0 | 2 |
| 参考 | テニス | 14 | 7 | 21 |
| 参考 | ホッケー | 2 | 2 | 4 |

◎文化部

| 活動名 | 男女別なし | 男女合計 |
|-----|------------------------|------|
| 1 | 吹奏楽 | 48 |
| 2 | 国際文化 (総合文化・情報文化を含む) | 9 |
| 3 | 科学技術・理科 | 14 |
| 4 | 美術・創作 | 39 |
| 6 | 合唱・音楽 | 13 |
| 7 | 家庭・家政 | 4 |
| 8 | PC・プログラミング | 11 |
| 9 | 茶道 | 5 |
| 10 | 囲碁 | 1 |
| 11 | 箏曲 | 1 |

◎部活動の実施状況

- 男子7,451人 女子5,486人 合計12,937人
(市内中学生数17,897人 入部率72.3%)
- 「新潟市立中学校部活動指導のガイドライン」に沿って実施しているが、新たな指針が必要。
(適切な練習時間・休養日の設定、年間計画の作成、指導の在り方、事故防止対策、外部指導者との連携等)

部活動の段階的な地域移行の考え方について

これまでの部活動

部活動の教育的意義

学校教育の一環として行われる部活動は、異年齢との交流の中で、生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築を図ったり、生徒自身が活動を通して自己肯定感を高めたりするなど、その教育的意義が高いことも指摘されている。（中略）教育課程外で行われる部活動と教育課程内の活動との関連を図る中で、その教育効果が発揮されることが重要である。

- 生徒同士や教員と生徒等の人間関係の構築、生徒の自己肯定感の向上
- 教育課程外で行われる部活動と教育課程内の活動との関連を図る中での教育効果の発揮

これからの地域での活動

自分の「やりたい」を実現する場～新潟市の中学生のための地域運動活動・文化活動～

＜地域移行によって期待される効果＞

を保障する

- 自ら選択し、判断し、行動する経験を通しての**自主性・主体性の育成**
- 多様な経験により、多様な価値観にふれることなどでの**人間性の育成**
- 活動を通して楽しさや喜びを体感することでの**自己肯定感の獲得**
- スポーツや文化に対する**見方の変容**の可能性
- 専門的な指導を受けることによる**技術の向上**

配慮事項

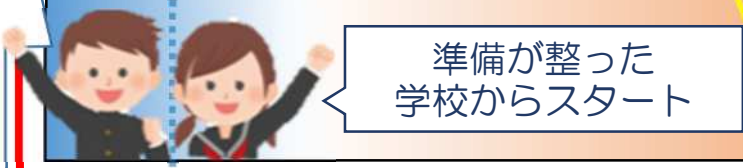
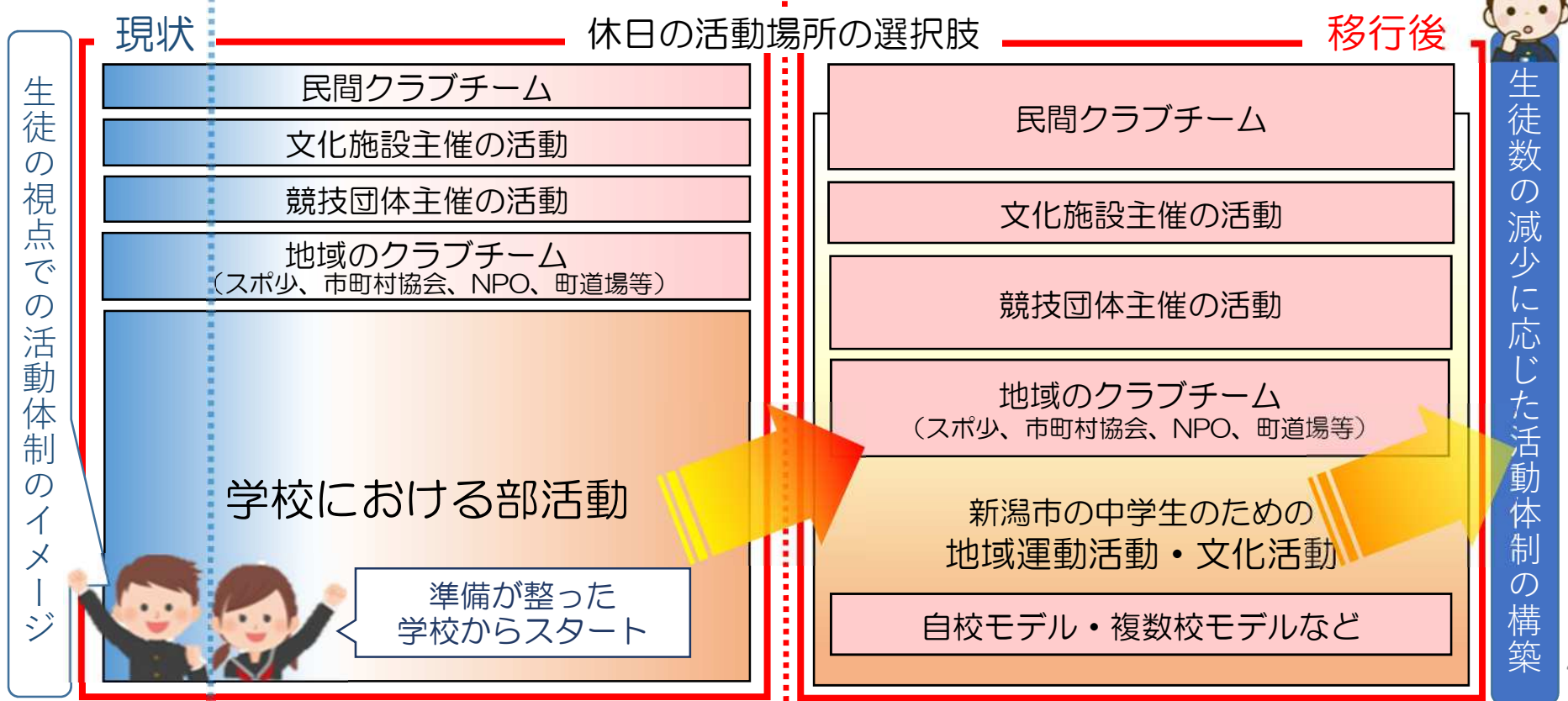
- 生徒指導としての側面での指導支援等の対応→生徒指導主任等との意見交換の実施
- 休日と平日の活動内容、生徒の言動等の指導者間の情報共有による連携した指導
- 多様な人（大人や他校生徒等）との望ましい関係づくりへの指導支援
- 国が示す「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」の趣旨に沿った安全な活動環境の整備

部活動の段階的な地域移行に向けた見通し

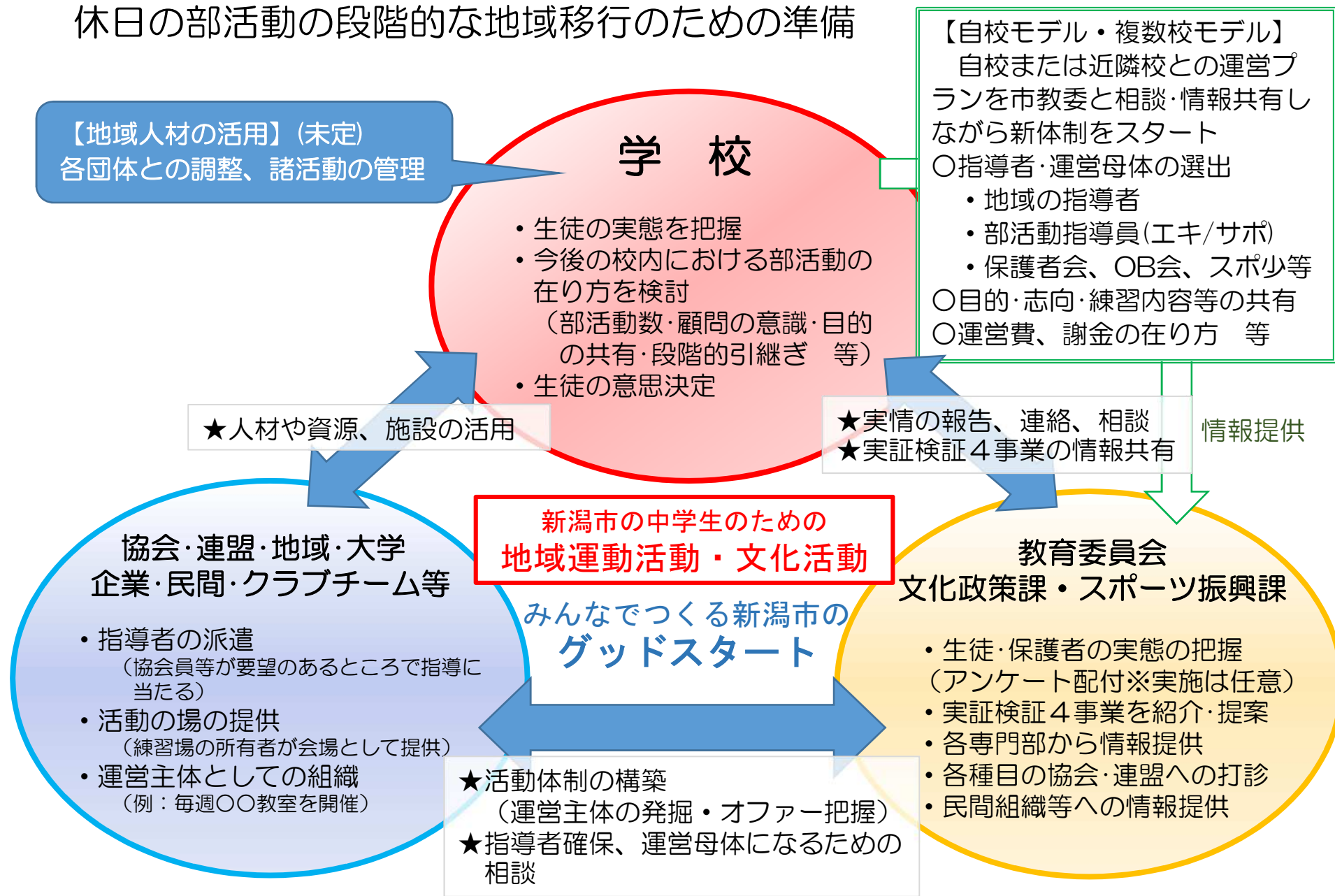
R4.4 — R5.4 — R6.4 — R7.4 — **R8.4** →



令和8年4月までの休日の部活動については、地域運動活動・文化活動に移行されても、中体連や学校関連団体が主催する大会前の1か月は、顧問の意志を校長が確認・把握したうえで、学校の部活動として許可を出すことができる。



休日の部活動の段階的な地域移行のための準備



【参考】令和4年度 部活動地域移行 実証検証事業

| 実施状況 準備項目 | (1) 北区サッカー コミュニティ MINAMIHAMA 【外部指導者運営型】 | (2) F-PROJECT 【協会運営型】 | (3) 新津 ランニングクラブ 【協会運営型】 | (4) 巻西中学校 ベースボールクラブ 【保護者会運営型】 | (5) 文化部参考例 胎内市吹奏楽クラブ |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 対象 | 南浜中学校（拠点） 松浜中学校 濁川中学校 早通中学校 その他、部未設置校の 北区中学生（希望者） | 東新潟中学校 他 市内中高生 | 新津第一中学校 新津第二中学校 その他、部未設置校の 秋葉区中学生（希望者） | 巻西中学校 その他、部未設置校の 近隣校中学生（希望者） | 中条中学校 黒川中学校 |
| 主な練習会場 | 南浜中グラウンド | 新潟市陸上競技場 | 新津一中グラウンド | 巻西中グラウンド | 上記の各校 |
| 所属人数 | 35名 | 100名 | 51名 | 24名 | |
| 指導者 （コーチ陣） | 以前から指導に関わる 地域の外部指導者 | 新潟市陸上競技協会員 （現職の中学校教諭が多い） | 秋葉陸上競技協会の ジュニア指導に関わって きた指導者 | 野球部OB会を中心とし た後援会員 | 地元の指導者 |
| 運営主体 （事務局） | 以前から指導に関わる 地域の外部指導者 | 新潟市陸上競技協会員 | 秋葉陸上競技協会の ジュニア指導に関わって きた指導者 | 巻西中野球部保護者会 | 休日も部として活動中。 指導者が講師として指導 に当たっている |
| 事務局の役割 | 日程の調整、場所の確保、 各種団体との連携、 スタッフへの連絡 | 指導者が事務局を兼務 練習の有無などをHPや ツイッターで連絡 | 各種団体との連携、ICT 「Class room」で練習に 関する情報を共有 事業費の管理 | 保護者会の会長が運営 の中心になる 保護者負担を基本とし、 事業費を管理 | 学校が部活動として実施 |
| 活動内容 | 基礎的な技術指導、高度な 戦術知識やルールに対する理解 に関する資質能力を育成を目指す。 | 陸上競技フィールド種目の普及・ 育成を通じて、総合的陸上競技 指導クラブを目指す。 | 陸上競技を通じた心身の健全な 発達と相互の親睦を図ることを 目的とする。 | 基礎基本の練習を中心に、 応用的な戦術についても主体的 に取り組み、選手の資質能力を 育成する。 | 地元の指導者が両校の練習に リモートで参加。全体や個別で 指導を行い、技能向上を目指す。 |
| 各種団体との連携 | 近隣の大学、高校、地域の少年団 と連携し、合同練習や指導者の 派遣を行う。 | 中学生だけでなく高校生も対象。 長いスパンを見越した継続的な 指導を行う。 | 秋葉区駅伝チームの一般選手や 高校生、区内の大学生との合同 練習を行う。 | 地域の少年団（小学生）と 連携し、地域一体の取組となる ような指導を行う。 | 自校での実施が中心 |
| 練習への参加体様 | 希望制（全員参加） | 希望制（各校より） | 希望制（全員参加） | 希望制（全員参加） | 部活動 |
| 他にも報償費・保険など | ○専門家による指導 ○生徒の技能向上（上位大会への出場） ○顧問の勤務時間外在校時間の減少 ○部の存続（メンバーの確保） ○保護者の主体性の高まり | | | | ○専門家による指導 |
| 成果 | ◇部活動と地域運動活動の指導内容のズレ ◇監督時の選手起用（公平性） ◇指導内容の活動場所までの移動（保護者の送迎） ◇手続きの複雑さ（契約・兼職兼業等） ◇活動の周知のさせ方 ◇中体連関連大会への出場条件 ◇移行期間のスムーズな引継 | | | | ◇運営体制の持続 ◇外部指導者への スムーズな引継 |
| 課題・難しさ・要望 | | | | | |

今後のスケジュール

- 11月1日 新潟市中学校長会での説明
- 11月上旬 児童生徒・保護者アンケートの実施・集計・共有（各校の任意による）
実証検証4事業の実態調査・紹介
中学校教頭会「働き方改革部会」での説明
- 11月中旬 課長ミーティングで検討
区教育ミーティング用プレゼンテーションの作成
- 11月25日 教育委員会定例会での説明
- 12月～1月 区教育ミーティングでの説明
各種目の協会・連盟への協力依頼
民間組織等への情報提供
来年度からの予定を作成・提案
市P連への情報提供
小学校・高等学校への周知
- *随時 関係各課の課長会議
地域運動・文化活動検討会議（中学校長会代表・中体連代表など）
- *今後の予定 地域運動・文化活動グッドスタートフォーラムの開催

各校は、自校または近隣校との運営プランを市教委と相談、情報共有しながら新体制をスタートする。

市教委は、関係課と連携しながら学校の実態に応じて活動内容や活動場所、指導者等の相談に応じる。